

# まちの史跡めぐり 107

町文化財専門委員 石瀧 豊美

## 続・町内の一枚の写真から

卒業写真と校舎の遠景

旅立ちの時、卒業シーズンと

なりました。涙、涙、涙……の

風景が見られることでしょうか。

それは今も昔も変わらない、誰

もが通り過ぎた体験ですね。

今回、ご紹介するのは七十八

年前（！）の卒業写真です。

植木にお住まいの恵良弘明さ

んからお借りしたアルバムから

選んだ一枚です。お父様の恵良

弘司さんの時代のアルバムで、

黒い台紙に貼られたセピア色の

写真はかり。カメラそのものが

普及していなかった上に、時代

を超えて残された写真も稀です。

今となつては貴重な写真がた

くさんありました。

恵良弘司さんとは私にもいろ

んな思い出があります。今から

二十三年前、昭和五十八年三月、

町制施行三〇周年の記念に『須

恵町誌』が発行されました。私

はその編集に加わっていました

が、恵良弘司さんは編集委員会

の副委員長で、教育史関係の論

議をリードしておられました。

全国的に知られた理科教育の大

家とお聞きしました。

一枚（写真1）は昭和三年三

月二日、須恵尋常高等小学校の

高等科二年の卒業記念の写真で

す。今で言えば、中学二年の年

齢に当たります。

男子は帽子をかぶり、学生服

もあれば着物姿もあります。最

前列は女子が占め、いずれも着

物ですが、袴をはいている子も

います。二列目は校長と来賓の

人たちで、来賓は須恵村の村長

や村議会議員などでしょうか。

中折れ帽が当時の正装であるこ

とがわかります。男女の先生た

ちは後方に集まっていて、先生

の中には坊主頭で詰め襟の姿も

見えます。

さて、階段状に並んでいるの

は、正門の階段を利用したため

です。人々のバックに写ってい

る二本の柱が校門で、右に「須

恵尋常高等小学校」、左に「須

恵公民学校」の看板がかけられ

ていました。奥の山の上には「一

本松」と呼ばれた松の木が見え

ます。

校門を上がつたところに、校

庭が広がっていたことは、もう

一枚の写真（写真2）からはつ

きりします。この写真では登校

途中なのか、階段の上と下に何

人かの子どもの姿が映って

います。階段部分だけ、拡大し

てみました（写真3）。

この時の校舎は上須恵の東干

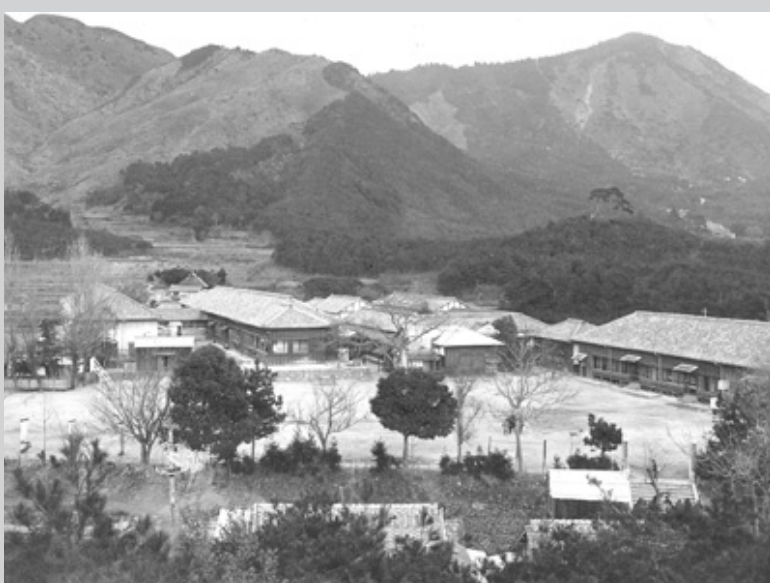
田にありました。郵便局から少



◀校門の前での記念写真（写真1）



▲校門の階段（部分）（写真3）



▲校舎と校庭（写真2）

し山側に入ったあたりが校舎の跡で、今も「学校畑」と呼ばれているそうです。ただ、現在は宅地が広がっていて、昔の姿は想像もできません。小学校は昭和五年に大島原（今の健康広場の位置）に移転しました。

当時、尋常小学校には高等小学校が併設されていました。義務教育の須恵尋常小学校は明治四十一年四月から尋常科が六年となり（それまでは四年）、四十五年四月に高等科二年が加わったため、学校名は須恵尋常高等小学校となりました。

一方、公民学校は大正十五年七月に須恵実業補習学校を改称したもので、小学校の課程を終えた者への実業教育を行いました。現在の社会教育に相当します。

一枚の卒業写真が学校制度の変遷の証言者でもあります。